

# 鶴見俊輔さんの二つの鼎談

おなじみの名前と顔なので初めはさ  
らも思われないのだが、改めて見るとさ  
らしい経歴の顔ぶれではないか。とわに  
1922年生まれという瀬戸内寂庵を  
い、ドナルド・キーンさん、鶴見俊輔  
さんが鼎談する『同時代を生きて—  
忘れえぬ人びと』(岩波書店)であ  
る。

3人ともに、一筋縄の人生で  
はない。瀬戸内さんは夫の赴任  
先の北京で敗戦を迎え、作家に  
なつてからも出家といつ、普通なら3  
人分くらいを一身に負つし、キーンさ  
んは戦争に勝つために日本語を学び、  
対戦国を好きになつてしまつ。鶴見さ  
んは日本の小学校と米国ハーバード大  
を卒業。帰国後に重属としてシヤク。とわに  
戦後、大きな仕事をし、なほ現役だ。「こんな  
に長生きするとは思わなかつたぞね」「そ  
う、自分でも驚いた」などといつたりだつ  
て、だからなまなかなものではないのだ。

しかし、読んで「長生きした人たちのむかし  
語り」といふ感じはあまりしない。同じ年でも  
3人の来歴があまりに違つので、よくあるパタ  
ーンになりようがないのだ。

なかで驚異的なのは、鶴見さんの博覧強記で  
ある。キーンさんも読んでいないといふ英語圏  
の伝記の話に、瀬戸内さんが「どつして、そん  
なに外国人の伝記をたくさん読むのか」と、思  
わず突つてくるので、記録を読んで「私がお  
しゃべりだといふことを痛感した」といふ鶴見  
さんのあとがきがおかしい。

## □ 鶴見俊輔に戦後世代が問へば (新藤)

「村」は、上野千鶴子さんと小熊英三さん  
が鶴見さんを訪ね、3日かけて戦中之戦後にか  
けてのことと思いつ切りおしゃべりしてしまつ  
た本である。とはいへこの2人の聞き手のこ  
と、「お説拝聴」ではもちろんない。鶴見さん  
がこれまで語つたり書いていたりしてないこと  
を、上野さんがキーン、といふ感じで問いた  
だし、小熊さんが遠慮がちに引き留め  
る。逆に小熊さんの率直な質問に、上  
野さんがあわてて「オコエを付け加え  
るといった具合だ。

## 鏡

## 凹

## 凸

当然ながら、両書に同じエピソード  
も出てくるのだが、同じ年の相手にも  
年若の相手にも、鶴見さんの構えはほ  
んど変わらないうつに見える。「そ  
の話を、今回初めて口になさいます」  
か」と聞くと上野さんに、「記録された  
ものはありますね」と答えるとき  
も。何といつか、埋蔵量ははかりしれ  
ない。  
(大上朝美)